**令和２年度　一般会計決算見込（速報版）**

* 特別定額給付金など新型コロナウイルス感染症対策関連経費の増により、歳入において国・府支出金が、歳出において行政施策経費が大幅な増となり、過去最大の歳出規模となっている。
* そのほか、歳入は、税制改正の影響等により市税収入が減となっている。
* また、歳出は、扶助費や淀川左岸線（２期）事業費等の投資的経費が増となったものの、人件費や公債費が減となっている。
* 実質収支については130億円の剰余となり、市債残高についても縮減を図ることができた。

**【歳　入】 　　　 ２兆　　４８７億円　 （＋ 15.7％、＋2,780億円）**

市税収入　 　　 　 　７，４４７億円 　 （△ 4.1％、△　315億円）

地方交付税・臨時財政対策債　　 ７３０億円 　 （△ 24.9％、△　243億円）

譲与税・交付金　 　　 　 　１，０５３億円 　 （＋ 20.2％、＋ 177億円）

国・府支出金　　　　　　 ８，７９０億円 　 （＋ 76.0％、＋3,794億円）

**【歳出（決算規模）】 ２兆　　２０８億円 　　　（＋ 14.6％、＋2,573億円）**

人件費 　　２，９０７億円　 （△ 0.8％、△　 25億円）

扶助費 　　５，７５７億円　 （＋ 0.8％、＋ 44億円）

うち生活保護費 ２，６５３億円　 （△ 2.5％、△　 69億円）

うち障がい者自立支援給付費　 １，０２７億円　 （＋ 8.9％、＋　 84億円）

うち教育・保育給付費 ７６７億円　 （＋ 3.9％、＋　 28億円）

公債費 　　２，２０７億円　　 （△ 19.5％、△ 534億円）

行政施策経費 　　５，５４４億円　　 （＋103.3％、＋2,818億円）

投資的経費　 　　１，８０４億円　 　　（＋ 12.5％、＋ 200億円）

**※新型コロナウイルス感染症対策関連経費　 ３，５９９億円（再掲）**

**【実質収支】 　　　 　　　　　 　　＋１３０億円　 32年連続の黒字**

**【市債残高】**

**一般会計 　２兆４，５２８億円（△ 6.5％、△1,708億円）７年連続のマイナス**

**除く臨時財政対策債 　１兆５，８０９億円（△ 9.7％、△1,706億円）16年連続のマイナス**

**全会計 　３兆１，８３１億円（△ 5.4％、△1,800億円）16年連続のマイナス**

**【財政調整基金残高】 　　　　　　 　１，６６４億円　 （＋ 3.0％、＋　 48億円）**

* なお、実質収支は130億円の黒字となったものの、財政収支概算（粗い試算）[2021（令和3）年2月版]では、試算期間の終盤には収支が悪化する見込みであり、財政状況は決して楽観視できるものではないことから、引き続き市政改革に取り組むことなどにより、持続可能な財政構造を構築する必要があると認識している。

（注１）計数は全て四捨五入を行っている。

（注２）（）書きの増減は対前年度決算比較であり、増減率は千円単位の金額により算出している。